

福岡を集める

田畠 裕司

「げんかい」が600号を迎えた。現在の編集者の矢羽田教昭氏、そして前編集者の小島純二氏におかれても、本業多忙の中で編集を続けてこられ、そのご苦労は大変であったと思う。厚く御礼を申し上げたい。

さて、福岡在住の収集家として、福岡局の消印を集めることは、郵趣家のたしなみであると考えて、機会があれば入手したいと考えてきた。ところが、初期の二重丸日付印以前の消印は、市場でもほとんど見かけない。オークションに出品されても、強いビットが入り、入手はままならないで、気長に集めている。

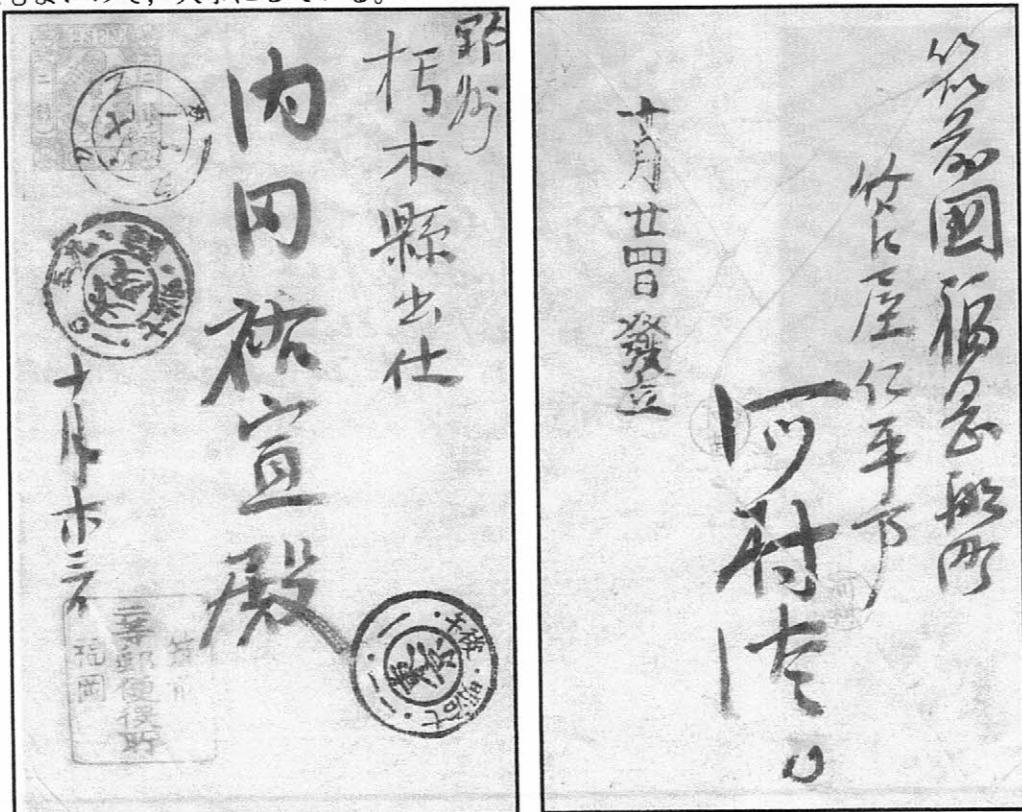
本稿では、福岡局の明治から昭和までの消印の中から一部を紹介したい。

福岡郵便取扱所は、明治4年12月20日に開局した。最初の消印は、角印の不統一印であるが、エンタイアは知られておらず、竜切手の单片が数点確認されているだけの希品である。残念ながら、紹介することはできない。

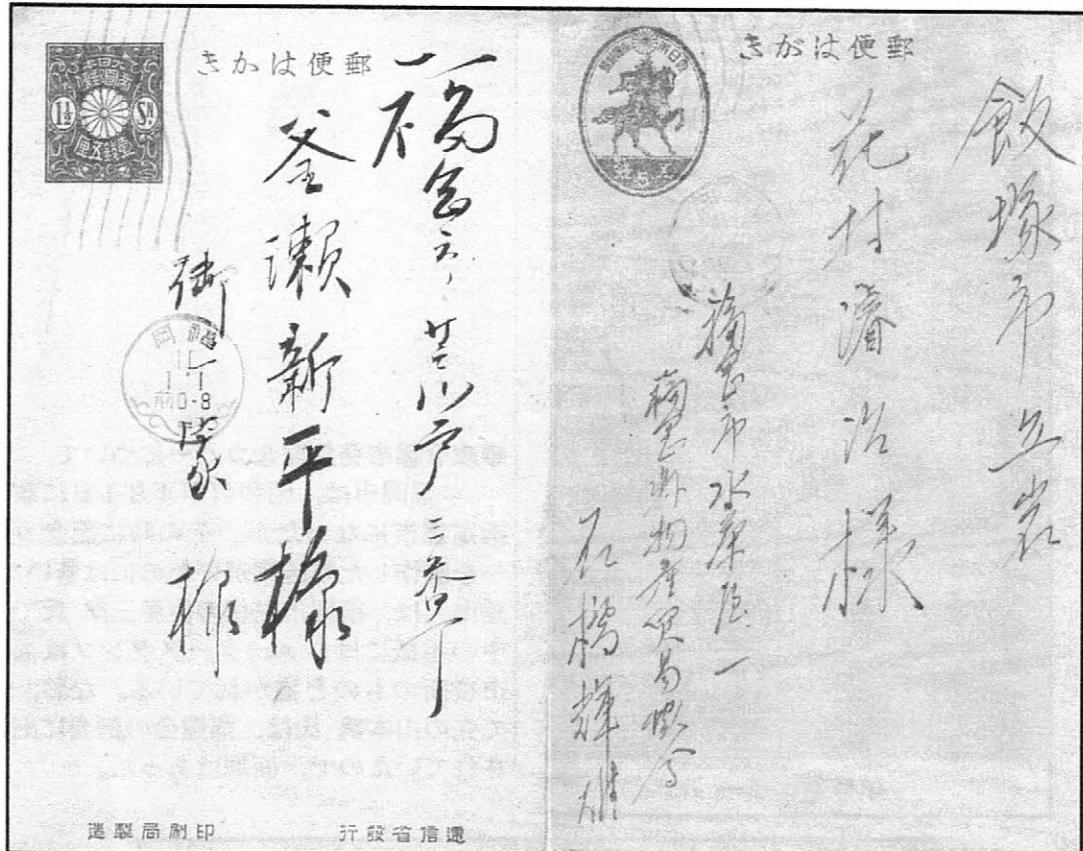
●不統一印◎フクヲカ／検について

次に、不統一印「◎フクヲカ／検」が使用された。平尾勉氏の調査によると、このデータは最古が明治6年12月17日で、最新は明治7年12月8日である。

私藏のものは、手彫封皮〈郵便切手〉角型2銭赤に「◎フクヲカ／検」+証示「筑前／福岡／2等郵便取扱所」+証示「10月24日発立」（裏面）→大阪N・B、明治7年10月29日→東京N・B、明治7年11月1日→栃木である。この不統一印は、大変少なく、封筒の状態もよいので、大事にしている。



●機械印のエラーについて

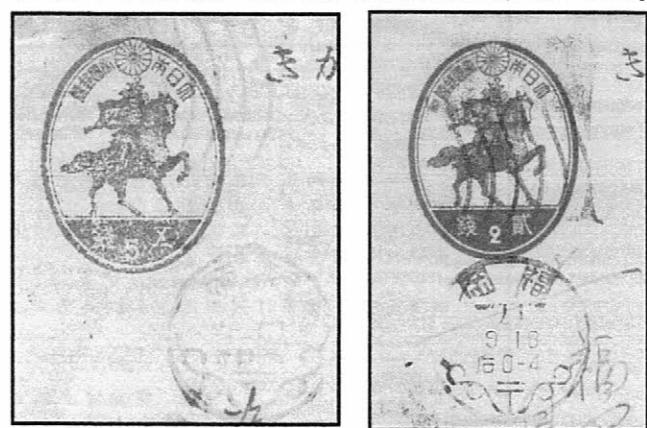


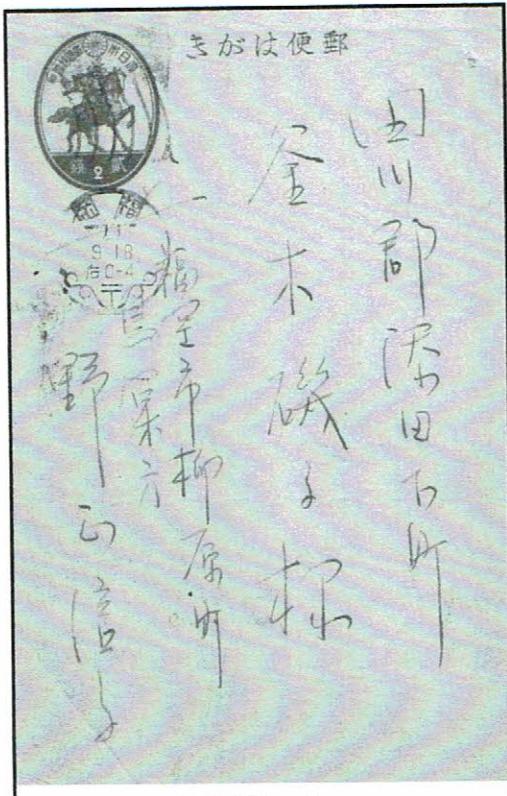
先ずは日付部位置が右の大きくずれたもので、1点目は分銅葉書1銭5厘に「唐草機械日付印（右書）／大型波型（縦型6本波）」の大正11年1月1日前0-8のデータであるが、年賀状に使用されたものである。このタイプの機械印は、前年の12月15日から正式に使用されたが、福岡ではそれ以前から使用されていた。

2点目の右すれば、楠公葉書5銭に「唐草機械日付印（右書）／小型波型」の昭和21年7月10日 前0-8のデータであるが、終戦直後の消印で印が薄いため、拡大した図版も示した。

3点目は、年号の「17」が逆字になったもので、楠公2銭葉書に「唐草機械日付印（右書）／小型波型」の昭和17年9月18日 后0-4である。これも、拡大した図版も示した。

同じ「小型波型」であるが、
「福岡」の字体は明らかに違う





年号逆エラー

●政令都市発足記念カバーについて

福岡市は、昭和47年4月1日に政令指定都市になったが、その時に記念カバーを制作した郵趣家がいたのには驚いた。差出人は、福岡市在住の佐甲三郎 氏で、中の手紙には、メータースタンプは福岡市役所のものと書かれている。なお、先の山本武 氏は、郵趣会の例会に出席されていたので、面識はあった。



福岡市政令指定都市発足記念カバー

このたび福岡市は札幌、川崎両市と共に政令指定都市として発足することとなりました。
これを記念して、私製のカバーを作り日頃頑しくしていた
だいている方々にお配りします。
メーター、スタンプは福岡市役所のE、B 116を使用させて貰
いました。切手は玄海国定公園芦屋の大門を使用しました。

昭和47年4月1日